ガーナでそろばんプロジェクト 109　号（2023 年 6 月 30 日）

★★　ケーンの罰では何も覚えられず痛みだけが残る　★★

新学期が待ち遠しい6月。予定では七月三日の週から三学期が始まる予定ですが、私の予想は始まるのは一週間延び翌週から新学期です。政府の方針でコロナ前の学校カリュキュラムに戻すと発表された今年2月から9月までが短い一年。現在、スクールバケーション中であるけれど、9月に中学卒業認定試験である高校受験を控えた中学3年生の生徒はもとより1年間の授業カリュキュラムに足りない授業数を補うため中2，中1の学年の生徒で村から地方に行かない生徒は学校に通っていることでしょう。そろばん教室を開室していた時にスクールバケーション中でも授業は行われていました。九九を暗記しないまま進級し、受験になるのはとても心が痛いものです。子どもが少しでも棒を書いて計算するのでは無く、数字を見てたし算引き算が出来るようになり、九九もしっかりと暗記できる取り組みをもっとたくさんやりたいと心から思うのです。この学校には、そうした私の想いに応えてくれ、私から学ぶ事を持ち望んでくれている子どもがたくさんいます。前号でお伝えした6年生の算数の盛り上がる歓声を聞き、5年生が“トシコ、次の時間、5年生に来て。算数やりたい。”と意外にも“工作がやりたい”というのではなく“算数がやりたい”と言ってくるのです。“わかった。”と返事するもの、以来5年生で授業を出来ないまま学期末テスト、スクールバケーションになってしまったので、3学期に5年生で算数の授業を真っ先に行ないたく、その内容を考えただけでワクワクし、待ち遠しくて仕方ないのです。その5年生で2学期5月に make10,make5 を一列になりすみやかに答えていくものをやった時の事です。私が“how make 10, eight plus ?”と聞き生徒が答えるというものです。答えられると席に着くことが出来、間違えるとまた後ろに並んで正解になるまで席に着くことが出来ないやり方でやっていた時、通りかかった事務の仕事をしている人が”トシコ、答えられない生徒にはケーンで叩きなさい“と言ってくるのです。私の授業には一切口出ししないで欲しい、そんな思いで返事をすることはしませんでした。日にちは変わり、前号でお伝えした6年生の算数の授業の時も実は似たようなことが起きる手前でした。授業開始時間から少しだけ遅れて教室に入ってきた担任は、なかなか指定した数が作れないでいる生徒を見て、私の背後から何か言いたげな雰囲気が伝わってきました。そう、それはまさに“分からない生徒にはケーンで叩きなさい”という言葉です。こんなにも楽しく算数をやっているのに、間違えたから、分からないからとケーンで叩く必要があるのか？自問自答する前に既に答えは出ているのです。これは長い長い間、行われてきている、これからも行なわれ続けられるガーナの教育文化、体罰文化なので変えることも無くすことも出来ない物なのです。生徒時代に私の事を“ヤブゥ”と呼んだ先生に向かって“トシコの事をヤブゥと言うな！”と勇敢に立ち向かったギディオンも中学クラスで問題を間違えた生徒にケーンを振るっています。どんなに“いやいや、ギディオンはずっと私を見てきたからケーン反対者だよ。”そう良い方には思えないガーナの教育文化なのです。ただ願うのであれば、ケーンの罰では何も覚えれず、勉強が楽しいと感じることも出来ないという事をそろばんを通して学ぶこ事を知ったギディオンには忘れないでいてほしいという事です。ケーンでは何も変えられない。ケーンの無い授業をするのは学校の中でたった一人であっても子どもたちが待っていてくれる限り楽しい算数を目指して進んでいくのみなのです。　TOSHIKO

子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。協賛

トモエそろばん様